

「おいしい話」の裏側 闇バイトとフィッシング詐欺から身を守る

2026年09月02日（水）

琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

皆さんは毎日、スマートフォンでSNSをチェックしたり、メッセージのやり取りをしたりしていると思います。しかし、その見慣れた画面の向こう側から、学生を狙う悪意が忍び寄っていることをご存知でしょうか。

今回は、近年大学生の被害（および加害）が急増している「闇バイト」と、手口が巧妙化し続ける「フィッシング詐欺」について、その裏側と対策をお伝えします。



「高額・即日払い」の罠：それはアルバイトではなく「犯罪」です

X（旧Twitter）やInstagramなどのSNSで、「#高額バイト」「#即日払い」「#ホワイト案件」といったハッシュタグを見たことはありませんか？ お金に困っている時や、割の良い仕事を短時間で探したい時、ついダイレクトメッセージを送ってみたいくなるかもしれません。

しかし、これらの多くは特殊詐欺（オレオレ詐欺など）の「受け子」や「出し子」、あるいは強盗の実行犯を募集する「闇バイト」です。

- ・ 抜け出せない恐怖のシステム 応募すると、身分証明書（学生証や免許証）を持った自撮り写真や、実家の住所、家族の連絡先を送信させられます。途中で「やっぱりやめたい」と伝えても、「家族に危害を加える」「学校にバラす」と脅迫され、無理やり犯罪に加担させられる仕組みになっています。
- ・ 逮捕されるのは「あなた」 「荷物を受け取るだけ」「ATMからお金を引き出すだけ」と言われても、それは立派な犯罪行為です。首謀者は安全な場所に隠れ、現場に出向く皆さんが「使い捨ての駒」として真っ先に警察に逮捕されます。退学処分はもちろん、その後の人生を大きく狂わせることになります。

日常に潜む罠：巧妙化するフィッシング詐欺

もう一つの大きな脅威が、SMS（ショートメッセージ）やメールで届くフィッシング詐欺です。

- ・ 本物そっくりの偽メッセージ 「Amazonアカウントの制限」「宅配便の不在通知」「クレジットカードの不正利用確認」など、思わず焦ってリンクを開いてしまうような巧妙な文面が届きます。
- ・ 情報と財産を奪われる リンク先のサイトは本物そっくりに作られた偽サイトです。そこでID、パスワード、クレジットカード情報などを入力してしまうと、情報が盗み取られ、勝手に高額な買い物をされたり、別のアカウントを乗っ取られたりする被害に遭います。

自分の身と未来を守るための「4つの鉄則」

こうしたスマホ経由の罠から身を守るためには、以下の鉄則を常に意識してください。

1. 「うまい話」は絶対に疑う 「誰でも簡単に高収入」「スマホだけで即日現金」といった甘い言葉は、100%裏があると考えましょう。楽して稼げる合法的なアルバイトは存在しません。
2. SNSで個人情報を安易に渡さない 見知らぬ相手に対し、身分証明書の画像や個人情報を絶対に送信しないでください。一度送信したデータは二度と取り戻せません。
3. メールやSMSのURLをタップしない メッセージ内のリンクは偽サイトへの入り口です。本物かどうか不安な場合は、メッセージのリンクからではなく、普段使っている「公式アプリ」や、ブラウザの「ブックマーク」から公式サイトにアクセスして確認する癖をつけましょう。
4. 迷ったら「一人で抱え込まず相談」する 「自分の応募したバイトがおかしいかもしれない」「誤って情報を入力してしまったかもしれない」と思ったら、すぐに大学の学生相談窓口や、警察・消費生活センターに相談してください。

スマートフォンは便利な道具ですが、常に外部の脅威と繋がっている扉でもあります。情報リテラシーを高め、自分自身の未来を守る行動を心がけましょう。



【参考リンク・相談窓口】

- ・ 警視庁匿名・流動型犯罪グループ対策本部
https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/tokushu/keishicho_tokuryu/tokuryu/
- ・ フィッシング対策協議会（最新の手口や事例が確認できます） <https://www.antiphishing.jp/>
- ・ 独立行政法人 国民生活センター（消費者ホットライン「188」） <https://www.kokusen.go.jp/>
- ・ 警察庁：警察相談専用電話「#9110」 <https://www.gov-online.go.jp/article/201309/entry-7508.html>



ふちがみ しんいち
淵上 真一

日本電気株式会社 Corporate Executive CISO

NECセキュリティ株式会社 取締役

ベンチャー系システムインテグレータでのネットワークエンジニアを経て、専門学校グループを運営する学校法人に転職。

教員経験を経て、社外では司法、防衛関連のセキュリティトレーニングを手掛ける。2018年よりNECグループ全社セキュリティ統括を担当。

ISC2 認定主任講師、Cisco Networking Academy Instructor Trainer

情報処理安全確保支援士集合講習認定講師、北海道大学 客員研究員

サイバー安全保障人材基盤協会理事、日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）

評議員、警察大学校嘱託講師、Hardening Project実行委員